

プが訪れたという。

⑪ 第一回芸術祭

戦争激化とともに統合、休刊を強いられた美術雑誌は、二十一年、戦後の過酷な物資不足のなかで次々と復刊された。八月には『アトリエ』が、九月には『みづゑ』が復刊され、『三彩』が創刊されている。『美の国』は十二月に復刊されたが、その編集雑誌のなかに主幹の石川宰三郎は次のように書いた。

煙のやうに秋霧の立ちこめた上野の森に、うたごえが打ちひびく。音楽學校、美術學校に若人の溜息が惱みとなり歡びとなつて流れる。あたたかな藝術祭だ。冷たい美術館の輔廊に目展見物の靴音が響してゐる。上野の森の祭典と行事に人の心が強くひかれるのはそこに生活の希望の窓を見ようとしてゐるのであらう。空白な人生に情熱の灯をかゝげてくれるものは藝術であるからである。上野の森が聖なる藝術の森に復して一切の邪惡を追はらねばならない。

芸術祭と銘打った音美両校合同の第一回学園祭は日本国憲法発布祝典の時期に合わせて昭和二十一年十一月七日から十三日まで開催された。本校生にとって、それは戦時下の重圧から開放され、男女共学となったばかりのときの新鮮な体験であった。また、学史の上から見ても、ともに芸術を目指しながら異常なまでに交流が杜絶していた両校が初めて合同で行事をするという画期的な出来事であっ

て、そこに活気と興奮が生まれ、祭りは大きく盛り上がった。両校から選ばれた芸術祭実行委員と指導教官（本校側は生徒課長西本順）の活躍により順調に開幕。両校内および都美術館横の広場で各種の催しものが繰り広げられ、博物館の表慶館でも本校藏品展覧会が開かれた。

この第一回芸術祭については小松光義、深見実郎その他諸氏から出版物や写真、新聞等々の資料が提供されたので内容を把握できる。それらによると、開催に先き立って資金集めのために次の案内状が配布された。

謹啓時下初秋爽やかなる折柄尊台益々御清榮の段奉賀上候

陳者今般東京美術學校並に東京音楽學校學生を主體として新生日本の文化寄與と併せて生徒の志氣昂揚、音楽、美術の普及並に學園結束強化を目的として上野の杜に於て左記に依り藝術祭を舉行し度く存じ候

就てはこの藝術祭をより盛大なる催しと致し度については我が文化藝術に御理解ある貴下の御指導と經濟的御援助を賜はり度乍無様右御願ひ旁々御報告申上候 敬白

藝術祭開催次第

一、美術展覽會

二、演奏會

三、演劇

四、運動會

十一月月上旬開催の豫定、期日及會場確定次第御案内申上候

追而 近日中係員參上御願ひ申上候へど便宜上左記へ御送附願へ
れば幸甚に御座候

昭和二十一年十月

東京都下谷區上野公園

東京音樂學校學友會

東京美術學校校友會

寄附金については「芸術祭奉加帳 東京美術學校校友會」に二十
名足らずの卒業生（皆大体百円寄付）と一団体（千円寄付）が記さ
れているのみであることから、やはり後述のように演奏会、演劇の
入場料が大きな資金源となったことが考えられる。

行事のあらましを記録しているのは記念冊子『第1回藝術祭』
だ。表紙には音美兩校のマークが並べられ、「後援在外同胞救出学
生同盟」と記されており、奥付には「昭和二十一年十一月八日発行、
編輯 美校 村井 真一、装幀印刷 美校 一噌元治、発行所 東
京美術學校々々友會」とある。B5判二十三頁。巻頭言と行事一覧表
は次のとおりである。

巻頭言

第一回上野杜藝術祭にあたりて

會長 音樂學校長 小宮 豊隆

藝術の使命は社會と接觸し社會に浸透し社會を高める點にあ
る。その意味で社會と交渉のない藝術は藝術の外道である。農民
が一年の沈潜を秋の收穫によつて輝やかしき區切をつけるよう

に、上野に住い美術と音樂との學徒は、一年の沈潜を藝術祭によ
つて發揚し、自分達の收穫をもつて何等かの意味で社會に寄與す
る所あらうとする。その寄與がどれだけの價值を持ち得るかは、
一に社會の批評に俟つ外はない。ただ我々の期待する所は、爾後
の一年一年の沈潜が年毎に輝かしい收穫を齎らす事によつて、年
毎にその寄與が輝かしいものになつて行く事である。

日 時	非 公 開	7 木	8 金	9 土	10 日			
第一回上野杜藝術祭行事一覽								
時	藝術祭式典	九時	十時——十一時 洋樂演奏會 東京音樂學校生徒演奏	十時——十一時 『檢察官』 岩田 健 演出 東京美術學校演劇部一同	十時——十一時 邦樂演奏會 能(寶生流) 長唄(杵屋六左衛門) 琴曲(宮城道雄) 東京音樂學校 教官及生徒演奏			
交響曲		洋樂演奏會		洋樂演奏會				
『新世界』ドボルシヤルク 大合唱		東京音樂學校教官演奏		東京音樂學校教官演奏				
歌劇『天地創造』ハイドン 『カルメン』 拔萃より		東京音樂學校教官演奏		東京音樂學校教官演奏				
東京音樂學校生徒全員		東京美術學校演劇部一同		東京美術學校演劇部一同				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時		二時——五時				
二時——五時		二時——五時						

		12 火	11 月
會 場	午	一時—洋樂演奏會 東京音樂學校生徒演奏 當日午前九時より假裝オリンピック大會 運動會・野外演奏會・假裝競技及大行進↓動物園前廣場	一時—洋樂演奏會 東京音樂學校生徒演奏
	午後	二時—邦樂演奏會 能(觀世流) 琴曲(山田流) 東京音樂學校教官生徒演奏	二時—洋樂演奏會 交響曲『新世界』 ドボリシヤルク 大合唱『天地創造』ハイドン 歌劇『カルメン』拔萃より 東京音樂學校生徒演奏
東京音樂學校演奏場内			生・室大 活博展 紹介館 等々會

その他の内容項目は次のとおりである。

芸術祭に寄す

音校 渋谷 傳

「検察官」配役表

「検察官」のゴロリに就いて

岩田 健

らくがき

小卷 元隆

東京音樂學校洋楽生徒演奏會 東京音樂學校洋楽教官演奏會

「天地創造」の解説 歌劇「カルメン」の解説

新世界より

解説 金子 登

東京音樂學校邦楽演奏會 邦楽演奏會解説

東京美術學校展覽會藏品解説目録

運動會及び假裝行列プログラム

演奏會、演劇、展覽會、運動會の内容についてはこの冊子とは別に左記の印刷物も配布された。

東京美術學校 藝術祭
東京美術學校 藝 術 祭

秋風涼々として上野の杜を訪ねる時 東京美術學校並びに東京音樂學校生を主体として藝術祭を舉行致します。

敗慘の内より起ち上る新生日本の文化に寄与し光輝ある日本芸術の發展を期してこゝに我等の芸術祭を計劃いたしました。

未だ未熟なりとも我等の熱と意氣を御高覽下され御指導いたゞければ幸に存じます。

期間及び会場

昭和廿一年十一月八、九、十、十一、十二日

上野の杜

入場料

東京音樂學校生徒演奏會 五圓

〃 美術學校生徒演劇 五圓

〃 音樂學校邦楽演奏 十圓

〃 音樂學校教授洋楽演奏 十圓

前賣 二十五日ヨリ

於東京美術學校校友會事務室
於 〃 音樂學校學友會事務室

當日賣 於各会場

					9 時 — 12 時	1 時 — 4 時
				8	金	音楽学校生徒演奏会（五円） オーケストラ演奏会形式による『カルメン』 美術学校演劇 「検 察 官」 五円
				9	土	美術学校展覧会 『検察官』同前 （五円） 東京音楽学校教授 洋楽演奏会 （十円）
			10	日	東京音楽学校生徒及教授 邦楽演奏会 （十円） 美術学校展覧会 右に同じ 洋楽演奏会 （十円）	
		11	月	東京音楽学校生徒 演奏会 （五円） 美術学校展覧会 上に同じ （五円）		
	12	火	運動會。假裝行列			

註

1、展覧會（十一月八日—十一日）

(イ)學校藏品展——狩野邦崖「悲母觀音」等…名畫数十点

(ロ)學校職員展——梅原龍三郎 安井曾太郎 小林秀恒^(五路) 安田靱

藝術祭會長 小宮 豊 隆
東京音楽学校々長

彦 奥村土牛 平櫛田中 石井鶴三 松田權
六 其ノ他

(ハ)生徒展——在學生全員
(ニ)生活展——寫眞ニヨル美術學校生活紹介
特別出陳 「ローランサン、ルオール、其他小品……」

2、洋楽演奏

クロイツァー、レオ〔・〕シロタ、安川加壽子、巖本眞理、野
辺地爪丸 其ノ他

3、邦楽演奏

4、運動會（会場 動物園前廣場）

音楽學校・美術學校合併

競戲 野外演奏 各特別假裝競争

音楽大行進ニヨル假裝行列

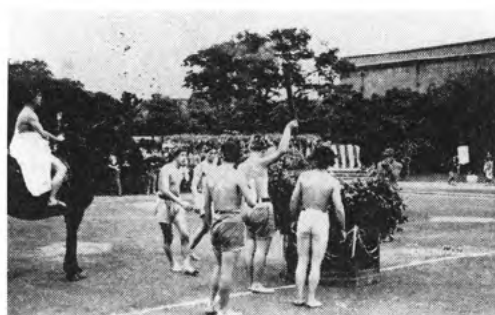
5、ファイヤーストーム 十二日運動會終了後美校ニ於テ

これによって入場料の金額が分かるが、当時は演奏会など殆んど無く、人々はこの種の催しに飢えていたから、受付には長蛇の列が出来た。写真で見ると時にはステージの上になで聴衆が並んだことが分かる。したがって相当の収益があり、それが芸術祭全体の運営資金となったのであるが、結局資金面で美術学校が音楽学校に依存するかたちとなった。そのため、美術学校側生徒代表田原（旧姓村井）真一氏は音楽学校の教授会に呼ばれて詰問されたという。

演奏会については本書の東京音楽学校篇で触れるとして、美術学

昭和二十一年秋、演劇部公演「検察官」(仁田三夫氏撮影・岩田健氏提供)

前列左より橋本純夫、大野、夢田安彦
後列左より早川、内田英也、佐谷見能



仮装競技(同上)



「検察官」スタッフ(同上)
第2列左より2人目芥川比呂志



仮装競技(仁田三夫氏撮影・小松光義氏提供)



超満員の演奏会 根本つね子の独唱
(小松光義氏提供)



仮装競技（仁田三夫氏撮影・小松光義氏提供）



同（同）



同（同）



野外演奏会（同）



同（同）



女装の寿美田与一氏（同氏提供）



仮装競技（同前）



第1回芸術祭記念誌表紙
（小松光義氏蔵）



秋葉原を行く仮装行列（寿美田与一氏提供）

校側の「検察官」について言えば、岩田健氏の呼びかけに応じて集まった生徒たちは、芥川比呂志の指導を受けて熱心に練習し、当日は力のこもった演技を見せた。外の学校の演劇部や劇団からも大勢見に来て、俳優座のスタッフが今までの学生演劇のなかで一番良かったと誉めたという。上野直昭も観劇したことを日記に記している。岩田氏率いる演劇部はその後も盛んな活動を続けた。

展覧会は、前出の行事一覧表および配布印刷物では十一月八日から十一日までとあるが、『第1回芸術祭』の本文では一日延びて十二日までとなっている。本校収蔵品展覧会は表慶館および本校陳列館で開かれ、古美術の名品と近代の秀作が多数出陳された。教官と学生の作品展は陳列館と本校本館で開かれたが、こちらは出品目録が残っていない。

運動会と仮装行列は両校生徒全体で取り組んだ催しであった。左に係員表（謄写版刷り）とプログラム（『第1回芸術祭』所載）、賞品表（謄写版刷り）を掲げる。学級対抗リレーの賞品が芋一俵とは、いかにも食糧難にあえいでいた時代を忍ばせる。

運 動 會 役 員 表

係名		校名		教官		生徒		役員	
係名	校名	係名	校名	係名	校名	係名	校名	係名	校名
係保護	音校	美校	音校	美校	音校	美校	音校	美校	音校
			山川	飯田	山川	飯田	兼子	兼子	鈴木
	高橋、前田	川村、佐藤、小林、永田、藤ヶ崎	松田(和賀代)、大沼	大野、直江、鹿島、關根	馬淵、佐藤(愛)、有馬キ、西谷、池田アヤ	金子、大島、小林、安川、福富	阿部マキ	鳩山、田中	石井、石田ツヤ、大浦テル
									深見、白根、宮川、伊藤
									駒ヶ嶺、柳、林祐、紙屋、佐々木
									山下、大成、伴、白田、島田、柳生
									佐藤、十日野、篠原、林達、日比野
									宮野、大塚、土谷、飯田
									川原、木村
									泉、桐野江

東京美術學校
東京音樂學校
運動會及假裝行列プログラム
會場 東京都々營 上野公園グラウンド
日時 十一月十二日 午前九時
プログラム
開會(午前九時)

- 一、聖火到着
一、開會の言葉
一、運動競技開始
- 第一部
- 1 綱 引 美・音(男女)
2 二人三脚 美・音對 百米
3 メクラ騎馬戰 美
4 ゼスチユア競爭 美・音 二百米
5 イモクヒ競爭 美・クラブ 百米
6 煙草吸競爭 美・音 百五十米
7 二人三脚 音 百米
8 ムカデ競爭 音 五十米
9 綱 引 美・音(教師對)
10 ラグビー OB對
- 野外演奏及特別競技
- 第二部
- 11 パンクヒ競爭 美・音對 百米
12 嫁取り競爭 美・音對 百米
13 リレー 美・音對 千米
14 假裝競技開始
15 行列進行
16 運動場に戻り閉會

以上

番号	競技名	出場校	人員	賞品名	単価	全数	合計	備考
1	綱 引	美男+音女	男女 30名 50名	鉛 筆	1ダース 10.00	14ダース	140.00	ノート 322.00 鉛 筆 240.00 ポマード 360.00 クリーム 160.00 クツズミ 42.00 煙 草 377.00 合 計 1,501.00
2	二 百 米	美(科別)男	各科2名	ノート	1冊 2.00	一人宛 5 15冊	30.00	
3	四 千 米	美(科別)男	各科2名	ポマード	1箇 10.00	2 10箇	100.00	
4	ゼスチュア競争 (二百米)	美男+音男	各校10名	ノート	1冊 2.00	[?] 30冊	60.00	
5	騎 馬 戦	美(科別)男	各科4名 一組五	鉛 筆	1ダース 10.00	2 10ダース	100.00	
6	リレー(千米)	美(科別)男	各科10名	ノート	1冊 2.00	2 60冊	132.00	
7	煙草吸競争 (百米)	美男+音男	各校8名	煙 草	10本 10.00	40本 200本	130.00	
8	二 人 三 脚	男音女		男ポマード 女クリーム	各1個 10.00	1 10箇 10箇	100.00 100.00	
9	ムカデ競争 (五十米)	男 音		煙 草	10本 6.50	20本 240本	156.20	
10	ラ ク ビ ー	美校 ラクビー部 +OB		煙 草 クツズミ (参加賞)	10本 6.50赤 1.50黒	20本 赤各1 140本 黒各1 14箇	91.00 42.00	
11	パンクヒ競争	美男+音男	各校10名	ポマード	1箇 10.00	2 10箇	100.00	
12	嫁 取 り 競 争	(男女) 美+音	各校5名宛	男ポマード 女クリーム	各1箇 10.00	各2 6箇 6箇	60.00 60.00	
13	リレー (二百米)	美男+音男	各校10名	ノート	1冊 2.00	5冊 50冊	100.00	

音校特別競技	1	学級対抗リレー (各級男女[?]名)	賞品名	単 価	全 数	合 計	賞品価額 総 計 2,121.00 内 訳 美 校 455.00 音 校 676.00 假 装 400.00 美校対音校 590.00 計 2,121.00
			芋 一 俵		一学級	100.00	
	2	借 物 競 争 (各級女二名)	ク リ ー ム	一箇10円	一人宛 2箇 計12箇	120.00	
	3	盲 啞 競 争 (各級男四名)	ノ ー ト	一冊2円	一人 5冊 計50冊	100.00	
美校假裝競技		假 装 賞 品	400.00				
一般特別競技		一 般 賞 品	100.00				

仮装は明治三十六年の本校の美術祭(第二巻参照)に始まり、昭和期の開校記念日運動会の余興として受け継がれて来た、言わば美術学校の伝統行事である。今回も本校側が主導権を握り、生徒はこのほか熱を入れ、奇想天外な仮装に興じた。「仮装オリンピック」は上野、小宮両校長をはじめ、生徒や一般の観客が大勢見物するなかでくり広げられ、上野の杜に爆笑が上がった。岩田健氏の日記によれば、一等賞は油画科の「ロダンの幻想」、二等賞は建築科の「女性解放」、三等賞は工芸科の「龍頭観音」、四等賞は彫刻科の「真冬の昼の軒」(ビッグマリオンとガラテアの話をもじったコメディー)に授与された。各紙がそれを採り上げたが、特に十四日付の写真新聞「サン」はロダンの「接吻」「バルザック」が演じられている場面を紙面一ぱいに掲載し、翌十五日には更らに見開きで競技の一コマコマを紹介した。写真入りで次のような記事を掲げた新聞もある。それは、明かるい話題が少なかったというだけではなく、新時代の息吹がそこにはっきりと感じ取れたためでもあったろう。

笑ひ疾走 仮装オリンピック

「軍國」の鐵鎖から解きはなされて「自由」の天地へはふりだされた上野の美術學校、音樂學校の男女生徒約三千名——ゲイジツの名に於てその自由を謳歌しようとする結果が「第一回上野杜藝術祭」となつて去る七日から上野の山を舞臺にくりひろげられてゐたが、その最終日の十二日は「假裝オリンピック大會」と名づけて全生徒がドンチャンさわぎをやつた。

なにしろゲイジツ家のタマゴだけあつて假装も奇想天外、チャップリン、黒ん坊、ビエロ、下町娘から辨慶までもとびだしてまづ午前九時オリンピック大會の開幕にちなんだ裸馬にのつた裸體の美、音兩校生各一名が右手に松火をもつて美校の校門から現はれ動物園前廣場の中央に設けられた聖火台に火を點じ、それを合圖につぎつぎと競技が行はれた

なかでも大佛の山車は觀衆のカツサイを浴びたが、大會の雰圍氣は午後になつていよ／＼高調に達しつひに假装の一隊は山を下つて廣小路から上野驛前へと踊り狂ひ道ゆく人びとを驚かせ、笑はせそしてあきれさせた

(昭和二十一年十一月十三日『時事新報』)

華かな上野の杜の藝術祭

去る七日から秋の上野の杜で開かれた藝術祭の終幕を飾る美術、音樂兩校合同の運動會は薄曇りの十二日午前九時から動物園前運動場で華々しく開催された、全裸體で裸馬にまたがり右手に聖火の松火をもつた美、音兩校各一名が美校校門から運動場中央に設けられた聖火臺に聖火を運ぶ宛らオリンピックの開幕を連想させるやうな華かな開場式をトツブにつぎ／＼と多彩な競技をくりひろげたがビエロ、黒ん坊、^{〔チ〕}テヤツプリン、辨慶、下町娘、など藝術家の卵の集りらしい華やかな假装が人氣を呼び進駐軍の兵隊さんや觀衆の破れるやうな拍手を浴びた

なほ午後は兩校生徒による華かな假装行列が上野の杜から廣小路、上野驛前へとねり歩いた

(深見実郎氏提供新聞切抜。紙名不明)

競技のあと、右の記事にもあるように一同は広小路まで練り歩いたが、本校側の生徒たちは余奮なお治まらず、翌十三日には今度は銀座まで仮装行列をくり出した。例によって裸踊りを始めるのではないかと、GHQがサイドカーで最後まで跡を追ひ、休憩時間に生徒がそれをやろうとしたが抑えられて到頭できなかったという。これはサイドカーに乗って行った田原氏(前出)の談である。この日のことも滑稽な写真入りで次のように報道されている。

爆笑をまく行列

上野美術学校假装行列隊は女をまじへて三百五十名が、十三日午前十時半上野をふり出しに神田、日本橋、銀座と練り歩いた、二頭の駿馬にまたがった騎士の露拂ひに「美を愛するてふ乙女等よ、この姿をなんと想ふ」とのブラカードをかつがせロダンの天使等を護衛に仕立てるなど各科生が突飛な着想を競つてものした動く珍藝術は果然街に「爆笑旋風」を巻き起した

(昭和二十一年十一月十四日『毎日新聞』)

第一回芸術祭は生徒たちが発案、計画し、学校当局がそれを応援するというかたちで行われた。食糧難と物資不足の甚しい時代であったにも拘らず、かくも盛大に大らかに祭りを開き成功させた生徒たちに敬意を表したい。

⑫ 文化講座

本年度末に近い頃、本校は文化講座を開いた。これは「文化日本建設の基礎は国民一般の教養の向上にある」のだから、学校拡張の一環として文化講座を開きなさいという文部省社会教育局長の通達によるもので、文部省から経費六百円が支出された。この通達は官公私立大学、高等専門学校、師範学校および社会教育団体に対してなされたもので(二十一年八月二十二日)、講義内容について数項目の指示があったが、本校が開いた講座は「文化の各領域に互り、新文化建設の方向を示唆し、その意欲昂進に関するもの」という項目に該当する。左記はその報告書控えである。

文化講座ノ件

標記ノ件ニ関シテ左記要項ニ依リ開催 文部省ニ報告致シマス

一、開催場所 東京美術学校講堂

一、開催期日 昭和二十二年

二月 八日 土曜日 自午後一時

二月 十五日 土曜日 至午後四時

二月二十二日 土曜日

一、講義題目及講師 彫刻ト平常生活

東京美術学校教授

石井 鶴三

漆ノ話

東京美術学校教授

松田 権六